

看護学科紀要に寄せて

米田 ますみ

奈良県立医科大学医学部看護学科非常勤講師

助産師

めまぐるしく変化し続ける社会の中で、今、助産師の果たす役割も共に変化している。私は多くの教科の中の一部を担わしていただいているに過ぎませんが、内容としては基本的な知識や技術の習得が中心です。しかし、その前に人間として自立した考えの出来る、成熟した大人を目指し、自分の目標を達成して欲しいと願っています。

いつも学生の皆さんにお話しすることは、感動することの大切さ、なぜならば感動は人の考えや行動、人生をも変えるということがあるからです。学生の時、先輩の卓越した技術と考え方に大きく、深く感動したことがきっかけとなり、向上心に燃え、生涯現役を目指し、今日に至った私の実体験を踏まえてのことだからです。

そうしたお話をすると、その時の学生さんの目が集中するような、射るような瞳に変わり、心の中から自分の置かれている立場を改めて確認するような表情、言葉、行動、そして心に聴かせるような一大決心というか、気持ちが芽生えるというか、一刻を置いて、心を落ち着かせ、自分を認めて学ぼうという意欲が感じられるのです。このことは、改めて自分に変化が起こったことを意味し、考えにも行動にも刺激を与えて、自立を促していくと考えられるのです。年齢を経た私にこの投稿の機会を与えていただいたのも、この様な経緯により成り立っていると考えています。

感動は、どんな些細なことでも肯定的な考え導くと思います。人間には考えるという能力が備わっていて、肯定的にせよ、否定的にせよ、マイナスになることはなく、多くの気付きと積み重ねや反省、修正等を踏まえて前進していくものだと考えています。

そして、学びは、学問上にせよ、日常生活にせよ、人間が生きていく、自分の考えるように、生きたいように判断し、取捨選択していく中で、無駄なことなど全くありません。自分が自立して一步一步階段を昇るように鍛えていく過程が学びであり、自分の人生、限りある生命を完うする道だと考えています。

学生の皆さんには、学習する学生の期間にある今だからこそ、礎となる考え方を磨くことが重要であり、将来の目標に向かって、自立した助産師として社会に大きく貢献できる人材に育ち活躍されることを期待しています。